

公表

事業所における自己評価総括表(児童発達支援)

○事業所名	Stack up高槻川西		
○保護者評価実施期間	2026年2月22日		～ 2026年3月31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	56人	(回答者数) 30人
○従業者評価実施期間	2026年2月27日		～ 2026年3月10日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8人	(回答者数) 8人
○事業者向け自己評価表作成日	2026年4月8日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	月次研修や外部講師の招致など、体系的な研修体制が、質の高い支援を支えるしっかりとした土台になっている。	毎月の計画的な研修に加え、外部講師の力もお借りして、職員の専門性を高める努力を続けている。	研修で学んだ知識を確かなものにするため、「実践報告会」を続けていきます。個々の専門性を伸ばす外部研修も増やしていく。
2	全職員が個別支援計画の検討に参加し、みんなで同じ理解を持つことで、お子様にとってより良い支援が実現できている。	担当者だけでなく、支援に関わる全ての職員が会議で話し合い、都合で参加できない職員にもしっかりと情報を伝える。	会議では、計画の効果が客観的にわかるような記録を共有し、保護者様のご意見を反映する仕組みも強化していく。
3	多様な関係機関と手を取り合い、お子様を切れ目なくサポートできる安心のネットワークを築いている。	担当者会議だけでなく、送迎の際など日常のちょっとした機会も活用して、関係機関とこまめに情報交換している。	合同研修や事例検討会で連携の質を高め、緊急時に備えたスムーズな情報共有のための連絡手順書も準備していく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	個別に静かに過ごせるクールダウンスペースが室内に十分に確保できていない。	汎用的な個別空間を確保できていない。	パーテーション等で個別空間を確保し、使用ルールと優先順位を職員間で共有する。
2	施設内の狭い動線での接触・衝突の危険性、段差が残る箇所があり安全管理が課題。	建物の構造上の制約でバリアフリー化が徹底されていない。	危険箇所への表示強化、緩衝材設置、可動式スロープ導入検討、職員の危険予知トレーニング。
3	保護者への連絡遅延、地域・家族交流機会不足	業務集中による対応遅延、役割分担・マニュアル不足	連絡体制を最優先で改善し当日中に一次返信を徹底。

公表

事業所における自己評価総括表(放課後デイ)

○事業所名	Stack up高槻川西		
○保護者評価実施期間	2026年2月22日		～ 2026年3月31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	6人	(回答者数) 3人
○従業者評価実施期間	2026年2月27日		～ 2026年3月10日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8人	(回答者数) 8人
○事業者向け自己評価表作成日	2026年4月8日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	月次研修や外部講師の招致など、体系的な研修体制が、質の高い支援を支えるしっかりとした土台になっている。	毎月の計画的な研修に加え、外部講師の力もお借りして、職員の専門性を高める努力を続けている。	研修で学んだ知識を確かなものにするため、「実践報告会」を続けていきます。個々の専門性を伸ばす外部研修も増やしていく。
2	全職員が個別支援計画の検討に参加し、みんなで同じ理解を持つことで、お子様にとってより良い支援が実現できている。	担当者だけでなく、支援に関わる全ての職員が会議で話し合い、都合で参加できない職員にもしっかりと情報を伝える。	会議では、計画の効果が客観的にわかるような記録を共有し、保護者様のご意見を反映する仕組みも強化していく。
3	多様な関係機関と手を取り合い、お子様を切れ目なくサポートできる安心のネットワークを築いている。	担当者会議だけでなく、送迎の際など日常のちょっとした機会も活用して、関係機関とこまめに情報交換している。	合同研修や事例検討会で連携の質を高め、緊急時に備えたスムーズな情報共有のための連絡手順書も準備していく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	個別に静かに過ごせるクールダウンスペースが室内に十分に確保できていない。	汎用的な個別空間を確保できていない。	パーテーション等で個別空間を確保し、使用ルールと優先順位を職員間で共有する。
2	施設内の狭い動線での接触・衝突の危険性、段差が残る箇所があり安全管理が課題。	建物の構造上の制約でバリアフリー化が徹底されていない。	危険箇所への表示強化、緩衝材設置、可動式スロープ導入検討、職員の危険予知トレーニング。
3	保護者への連絡遅延、地域・家族交流機会不足	業務集中による対応遅延、役割分担・マニュアル不足	連絡体制を最優先で改善し当日中に一次返信を徹底。